

第4回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録（要旨）

【日 時】 平成21年12月2日（水）午後6:00～午後8時10分

【場 所】 役場（大会議室）

【出席者】 委員～9名（欠席6名） 町～8名

委員	中野忠雄	○	遠藤共子	○	廣部健二	×	須崎正寿	×	山口俊哉	×
	鈴木孝一	×	岡本克也	○	原口 篤	×	山 節子	○	小田桐 實	○
	小澤達司	○	森本由利江	○	佐々木勝幸	×	明石伸子	○	岩口直樹	○
町	北町長、三本副町長 事務局：碓井課長、石川主幹、相澤係長、遠藤主事 都築主事 木村主事									

1. 開会 碓井課長

2. 委員長あいさつ

3. 町政運営等に関する主な動向について 北町長

- ・フィンランドでの地方自治セミナーのことなどについて説明

4. 議題

(1) 奈井江町第5期まちづくり計画 後期実施計画に係る意見交換について

初めに碓井課長より、今まで部会などで意見交換を行った際に出た町の現状に関する質問について、配布した資料にもとづき説明した。

その後、委員長の司会で、大綱毎に町民委員会全体での意見交換を行った。

（大綱毎に事前配布した資料にもとづき、相澤係長が今まで出された意見の要約を説明）

◆安全で環境にやさしいまちづくり

（委員）

不審者情報は、未成年者に対しての声掛けをしていると思うのですが、実は児童館の側で成年の女性に対してありました。そのことについての情報が伝わってこないのです。被害者になるのが成年か、未成年かは解らないので被害者の方の年齢で区切らず、全て知らせてもらえたら良かったなという気がします。

（委員）

一人乗りの電動カートについて、前回うまく伝わっていないようで、カートを利用している方の交通安全に対する意識もそうですが、その方たちがなぜ歩道を利用しないのか、もしかしたらハードの部分で歩道が使いにくいのではないかと、ということも含めて伝えなかったのですが。

今すぐ、直すという訳にはいかないでしょうけれどまちづくりの計画を見ると「おもいやり明日に」「バリアフリー」といっぱい出てくるのですが、傾斜もあり、歩道はその点では使いづらいかなと思います。

(委員長)

今後、改修の際にはそういう提案は非常に大事なと思います。最近は縁石だけ飛び出ていて車道と歩道に段差がないのがあります。

(委員)

来月の交通安全協会の理事会で、交通安全の問題について充分協議して、来年度のことを考えたい。奈井江町は、町長さんを始めみんな一生懸命、交通安全に取り組んでいる。これ以上の取組はどうすればいいのか。事故をなくすためには、みんなの協力しかないと思う。

(委員)

去年でしたが、町立病院の前が非常に氷で滑りやすかったです。

14号のアンダーパスの歩く所も非常に滑るので、砂を蒔いて下さい。

(町長)

14号線の所は去年からそのような話を頂いていて、土現に言ってますが、改めてよく確かめてみます。それから病院の前ということですが、お年寄りも多いですし、誰でも危ないですから、きちっと注意しなければなりません。

(委員)

本州では車道と歩道の境界が高くなっているだけで、歩道が平らなところがある。交通安全ということではわからないが、こういう歩道が使いやすいのではないと思う。

今の歩道のカラーブロックは、足が引っかかってあぶないと思う。子どもの自転車も乗りやすいしね。

(まちづくり課長)

後期計画でも歩道の改修について、検討をしている最中です。歩道設置の補助基準もかわり、歩道が広くとれたりもします。歩行者、自転車の安全対策も考えていきます。

(委員)

ごみ袋のことですが、80円から上がるかもしれないですか。

(委員長)

前回上げたらみんなお金がもったいないから、減らす努力をするのでは、という提案がありました。

(委員)

それでですが今、札幌市がごみ袋有料化になって不法投棄が増えているというニュースを見ました。もし奈井江町でごみ袋代が上がったら今でもそうだけど北電沼の東西通りにごみがいっぱいですし、ライスターミナルの前も相変わらずごみだらけだし。そういう所の不法投棄を防ぐ手段はないかと。西何線かは「ごみ不法投棄やめて」と農家の人がいっぱい立てているので、あそこの道路は減ったのですが、陰になっているところには町外の人だと思っただけですが、多い様に見えます。

(町長)

出来るだけのことをしていかなければならないが、監視していくことはなかなか難しいです。いろいろな立場の人をお願いしたのですが、大変難しいと思います。

だから意識をみんなに持ってもらおう。奈井江町にはそういうことをさせない、何かいい言葉があれば看板を立てる。

(委員)

鳥居の看板を立てると捨てないと聞きました。

(委員)

妻と登山を始めたが、登山道は綺麗だが、横に入って山菜取りの人が入るようなところはごみが落ちていて、人の意識の問題だと思う。

(委員)

近所の人から頼まれた話ですが、プラスチックは朝、すぐに持っていつてくれるが、燃やせるごみは2時か3時にならないとなかなか持って行ってくれません。カラスがいたずらをするので朝回収をして欲しいです。

◆健やかな心ふれあうまちづくり

(委員)

障害者関係の意見がなかったが、何もでなかったのですか？

(まちづくり課長)

町民会議の時には、障害者団体の方も出席していて、何かご意見がありますかと聞いたが、今は特にないとのことでしたが、後日、聞いてみるようにします。

(委員長)

病院のベッドが空いているのに入院できないことがあるが、これはどうしてなのか教えて下さい。

(町長)

3ヵ年間で、入院率が70%を切ると入院ベット数を減らすなどの改革をしなければならない。奈井江は73%を超えているので、大丈夫ですが、最近の状況をみると70%を切ることもある。在院日数、30日を超えると砂川あたりは退院をさせる。これは診療報酬がでないため、赤字を回避するためです。奈井江は長期入院が多いが、福祉施設と連携しながら、一般病棟もかなり弾力的に行っています。

◆学びあい心潤うまちづくり

(委員)

小中学校の先生が地元に住んでいない。僕らの頃は、先生方が町に住んでいて、夏休みや冬休みに先生のところにあそびに行ってお話を聞いて、ということができない。だから、いじめや自殺に繋がるとは思っていないが、できれば地元に住んで欲しい。そのために教員住宅を良い環境にして下さい。

(町長)

この辺は通いやすいし、先生方に強制的に住んで貰うことはできないが、アンケートなどを行ってみたいと思います。フィンランドでは、教員の質を高めるために先生たちがどこに住んでいてもかまわないとしている。なかなか難しい問題ですね。

(委員)

フィンランド教育の講演がすごくよかった。前向きになにか取り入れたらいいですね。

(町長)

教育のシステムも違うのでそのまま取り入れることはできないが、小学校の統合が進むようであればいいシステムにしたいと思います。

◆魅力ある産業をめざすまちづくり

(委員)

町民会議の中で、「農業振興地域の土地売買が敬遠されている」と「家族経営の協定」がありました。それについての説明をしていただけたらいいのですが。

(委員)

家族経営の協定とは、今までは、一緒に仕事をして報酬がなかった。家族として働いて、収入が思うように貰えていない。それで、今は書面の中で一日の労働は何時から何時まで、この日は休みと、きめの細かい書類を作ってそれを家族の中で印鑑を押して協定を交わして、お互い農業の中で働きやすくしましょうということで始まりました。若いお嫁さんが来た時にこれを推進して家族の中で互い違いにならないで過ごしやすい農業経営をする為に必要ではないかということで出来ました。

(委員)

これは進んでいるのですか。

(委員)

奈井江で何人かしかいないです。1人かそれくらいしかいないと思います。

農業をしながら加工に参加するのにお姑さんや夫の理解が必要なので、書面の中で契約をしてお互いに働きやすい場を家庭の中で作るということです。

(委員)

土地売買が敬遠されることはどういうことですか。

(副町長)

おそらく農業振興地域とは逆にお年寄りが増えて農業の担い手が少なくなっていますので、規模拡大をする要件はあるのですが、限度があるものですから、土地が下がってきてるし、売る側は高く売りたいというギャップもでてきています。反面農業振興地域ではないところは、国の助成制度が無くて田圃を立派にしようとしても出来ない。だからそれも売れないという両方の矛盾が出てきているところであります。先程の後継者の問題も含めて農業経営そのものがきちんと成り立つ様な仕組みが出来てくればいいです。

(委員長)

農業振興地域と書いたのが間違いでは。

(町長)

間違っって書いてあります。

(副町長)

農業振興地域は昭和44年に国が農地を保全するため制定され、農用地区域とそれ以外の

土地（白地）に区分され、白地は商工業や住宅地として開発をしてもいい所としています。だんだん都市化が進まなく結局は農地として使わなければならない。国の補助はなかなか当たらない。だから逆に買って欲しくても買って貰えない。そういうのが出てきているのは確かです。

（町長）

国が昔、町が発展していき、農業振興地域にしておけば、工場を建てることが出来ない。というのをしやすいようにしようと。今は過疎化してそこに行かないのですが。

（副町長）

まさに当時は列島改造で、全国の工業化を進める時に土地登記があったので、逆に農地を保全する為に出来たのです。

（委員）

住宅マスタープランを見ると工業化にしたいという所があり、例えば砂子組から16号の間や奈中と公民館の間とあるのですが、20年経ってもこのままなのですか。

（町長）

随分前ですが、国道沿いの土地を買いたいという人がいました。そこは、農業振興地域なので農地以外には出来ません。昔はそういう状況でしたが今は広がっていきません。

（委員）

こういうことの働きかけは継続的にしていますか。

（町長）

これは、地域づくりで意見を一致してやらないといけないですが、岩見沢市など膨らんでいる町もありますので、みんな一致してはなかなか出来ないのが実態です。ですが、法改正してもらわなければ将来駄目でしょう。

◆みんなでつくりあげるまちづくり

（委員長）

評論家の話で日本の子どもの数が増えるとは想定しにくい。地方において人を増やすことや、人口が急に増えるとは考えにくい。ならば、どういう人たちに奈井江を知って貰えるか。定年後のある一定期間、夏だとかに来てもらう。そういうような発想も日本全国に意味していて地域の活性化に繋がるのではないかという提案を言っていた。

都市で色々な知識を持った方に夏の間奈井江に出張に来てもらって冬になって仕事が終わったら都市圏の自分の家に帰る。そういう人の動きを考えた発想もいいのではと思います。

（町長）

それは大切な意見ですが、当時の栗沢町でそのような形（クインガルトン）をやって、当初はヒットしてすごかったのですが、今は全然利用者がいないそうです。このような事がありますので、なかなか難しいです。地方でもっと住みやすい環境をどうやってつくるか。交付税が小泉内閣で5兆円減らされた中、麻生内閣で1兆円出したのですよ。そして今、鳩山さんが1兆円増やすという。しかし、景気がこれだけ落ち込んで税収が40兆円のところ37兆円ぐらい。そうすると当たり前でバランス的に都市はいいけど、地方は益々疲弊してくる。全国的にも都市中心で札幌あたりは高齢者マンションができて住民移動が始まっていることも事実です。地方は益々いなくなっている傾向がありますので我々も頑張

らなければならない。国を挙げてこのことを考えていく。交付税は減らすあれは減らすで、酷いパンチを浴びせられたのですから、奈井江町もご存じの通り事務職員も120名程いましたが、今89名です。7年間不採用です。そして給与をカットしたりしています。

(委員)

平成16年に平成25年の人口予想をしているが、現行の計画では、今の実際の人口とも100人ほどの乖離がある。計画立案当時の計画にどれほどの実効性があるのだろうかとの不安がある。

(町長)

人口動態については、後期振興計画にむけてシビアにきちっとみていかなければならない。

(委員長)

だいたい意見も出たかなと思いますので、事務局の方で集約をして頂こうと思います。事務局より連絡がありましたら、それで終わりたいと思います。

(まちづくり課長)

いただいた意見の集約をして、いま叩き台としてもっている計画にいかに関係できるかを検討しますし、いただいた意見を今日のように全体に示すことも町民参加という点で大事なことでと考えています。さて、今の予定では1月の下旬に計画を議会に提案し、2月に入り特別委員会で議論をいただき、3月の議会で正式に決定、4月にスタートする予定です。関係する資料は皆さんに示していこうと思いますし、次回の町民委員会は、定例議会の前に行うことにしていますので、よろしくお願いします。

(2) その他

なし

(閉会)

◆補足

(町民委員会のなかで障害者の関係の意見がないとの発言を受けて、部会に欠席だった関係団体の委員から電話での意見徴収を行った)

普段から福祉担当の方を始め、町には協力をしてもらっているし、今年はケアハウス建設用地で町に協力をしてもらっている。障害者自立支援法の関係で難しいとは思いますが、今、障害者の働ける場所と生活の場所の確保が大変難しくなっている。これからも町の協力をお願いします。